

文部科学省委託事業・成果報告会シンポジウム

「成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進事業」

認知症の人に寄り添う中核的鍼灸専門人材の 多職種連携の中での役割と可能性

コーディネーター

後藤修司

- ・学校法人後藤学園 理事長
- ・公益社団法人 全日本鍼灸学会 会長
- ・文部科学省委託事業・医療介護連携・鍼灸職域プロジェクト実行委員会 委員長

コーディネーターのご紹介

後藤修司先生

・学校法人後藤学園 理事長

職歴

- 1977年11月 -現在 東京衛生学園専門学校 学校長
- 1988年04月 -現在 学校法人後藤学園 理事長
- 1993年09月 -現在 中華人民共和国天津中医薬大学 客員教授
- 1993年04月 -2003年03月 American College of Traditional Chinese Medicine (サンフランシスコ)
理事長 (現在 名誉理事長)
- 2003年04月 -現在 Acupuncture and Integrative Medicine College, Berkeley (ハークレー) 理事長

社会歴

- 2000年04月 -2006年3月 (公社) 東洋療法学校協会 会長 (現在 顧問)
- 1988年06月 -2008年06月 全国私立リハビリテーション学校協会 会長
(現在 (社) 全国リハビリテーション学校協会 (2009年改組) 名誉会長)
- 1990年03月 - (公財) 東洋療法研修試験財団 理事 (現在 常務理事)
- 1997年03月 - (公社) 東京都専修学校各種学校協会 理事 (現在 常務理事)
- 2004年04月 -2009年03月 (社) 日本看護学校協議会 理事
- 2008年06月 - (公社) 全日本鍼灸学会 会長

パネリストのご紹介

川並汪一先生

- ・ 一般社団法人老人病研究会 会長
- ・ 日本医科大学 名誉教授

ご略歴：

- 1973年：日本医科大学大学院卒業（第1病理学教室）
- 1974年：アメリカ国立衛生研究所（NIH）留学（4年間）
- 1987年：WHO-西太平洋事務局Temporaryアドバイザー（10年間）
- 1997年：日本医科大学大学院老人病研究所教授一所长
- 2006年：社団法人老人病研究会 会長
- 2007年：文部科学省・戦略的基盤研究・社会連携研究事業代表
- 2008年：第1回 認知症国際フォーラム開催（有楽町東京国際フォーラム）
- 2009年：第2回 認知症国際フォーラム開催（川崎市中原区エポック中原）
- 2009年：日本医科大学定年退職・名誉教授
- 2010年：北海メディカルネットワーク総院長
社団法人老人病研究会認知症Gold-QPD育成講座推進委員会代表
- 2011年：中国北京中医薬大学東方病院客員教授
刑事施設の不服審査調査検討会メンバー（法務省）

川並汪一先生

・一般社団法人老人病研究会 会長

・日本医科大学 名誉教授

自己紹介：

私は、医学部学生時代（1963～69）に大塚敬節先生の著書を読み漠然と漢方医学への興味を抱いておりました。卒業後それをすっかり忘れ西洋医学は電子顕微鏡と分子レベルでの病因解析に没頭してきました。

2002年より川崎市民と交流を始め、2007年に文部科学省・戦略的基盤研究・社会連携研究事業代表となり「認知症まちぐるみ支援ネットワーク」事業に5年間従事し、認知症相談センターにおいてコンサルテーション活動をしてきました。2009年に難病と認知症治療に中医学鍼灸と漢方を試み異なる医療世界に突入したわけです。

グスタフ・ストランデル先生

・株式会社舞浜倶楽部 代表取締役社長

川崎福祉産業振興ビジョン検討委員会委員、富山大学非常勤講師、その他の主な活動歴としては2010年フジテレビ新報道2001特集に出演、2009年参議院国民生活・経済に関する調査会参考人。

グスタフさんは、日本語がペラペラです。高校生の時に日本に交換留学生として来日、勉強の傍ら剣道にもものめり込み、後に剣道2段を取得。その後、スウェーデンと日本を行ったり来たりでストックホルム大学を卒業、スウェーデン福祉研究所、日本スウェーデン社会サービス研究センターなどに関わってきました。日本の社会福祉施設も300カ所以上も訪問、調査、講演等をこなしており、NHKや教育テレビなどに出演したり、書籍「私たちの認知症」を出版されています。

認知症の患者さんが、自分らしく生きるすなわちQOLを高めるためのケアツリーを提唱し、スウェーデンの福祉文化を日本に伝えるための伝道師として活動をされています。

認知症の介護ケアに関して、根は社会・理念、樹は社会制度・経済、枝は環境・ハードとソフト、葉は希望・理解と連携と言う。

和田雄志先生

・公益財団法人未来工学研究所 理事、フェロー

ご専門分野は、社会システム、超高齢社会研究、医療福祉政策、地域振興計画、メディア社会論です。

1974年以降、未来工学研究所において、未来社会予測、防災・危機管理、福祉介護、科学技術と文化の境界領域研究など、多分野にわたる業務に従事されておられます。

代表的な業務実績としては、「高齢者の居場所と出番に関する事例調査（内閣府）」では地方公共団体等へのアンケート調査および現地ヒアリング調査を通して、地方公共団体やNPO団体などによる高齢者の居場所と出番に関する取り組み実態を冊子にまとめられました。まとめた冊子は、内閣府から国内の全自治体に配布されました。

また、「介護・福祉分野における人的資源の活動実態と課題発掘に関する調査（国立社会保障・人口問題研究所）」を行い、データを収集・分析し、まとめられておられます。

URが分譲した築30年超えの大規模団地は、施設の老朽化と居住者の高齢化が同時進行しており、このまま放置すると資産価値の低下とコミュニティの劣化が懸念されます。日本全体が超高齢社会に突入した現在、老朽化した居住空間およびそこでの地域コミュニティの具体的な再生・活性化戦略を調査研究されました。

韓景献先生

- ・天津中医薬大学教授
- ・中国鍼灸学会常務理事

ご略歴：

1970年：天津医科大学臨床医療系卒業

1987年：北里大学医学部留学、京都大学医学部研究員

1990年：天津中医薬大学第1附属病院鍼灸部教授

2003年：天津中医薬大学第1附属病院 院長

2010年：天津中医薬大学附属病院研究所所長、中国鍼灸学会常務理事

とくに認知症を対象とした韓景献式鍼灸法（三焦鍼法）の開発者として、この度はゲスト・パネリストとしてご参加頂いております。韓景献教授の三焦鍼法に関する論文につきましては、本日のパネリスト・川並汪一先生がモデル教材のP18～20でご紹介をされておりますので、ここではご紹介を割愛させていただきます。

なお、2009年10月31日に川崎市中原区エポック中原にて開催された第2回認知症国際フォーラム・「漢方と鍼灸による予防と治療」にパネリストとしてご参加され、認知症に対する鍼灸治療として三焦鍼法による研究成果の全貌を日本で初めて公開されました。第2回認知症国際フォーラムの詳細につきましては、モデル教材のP13～18をご参照下さい。この第2回認知症国際フォーラムにおけるパネルディスカッションは、同年11月29日にNHK教育テレビ・日曜フォーラムにて「認知症に東洋医学が挑む」というテーマで全国放映されました。

兵頭明先生

・学校法人後藤学園ライフエンス総研 中医学研究所所長

ご略歴：

1984年～現在：学校法人後藤学園ライフエンス総研 中医学研究所所長

1990年～現在：筑波大学 理療科教員養成施設非常勤講師、

1999年～現在：天津中医薬大学客員教授（1993年～99年：天津中医薬大学客員副教授）

2010年～現在：一般社団法人老人病研究会 常務理事

日本と中国の国交回復後の第1期国費留学生として1974年から中国北京に留学。

北京中医薬大学卒業、1982年に日本に帰国。日本の鍼灸教育への中国伝統医学（中医学）の導入、教科書の作成に従事、また中国伝統医学の真髄をわかりやすく日本に広く普及啓蒙をはかるために、現在までに出版された専門書・一般書は30数冊にのぼる。中国伝統医学関連の総合雑誌である『中医臨床』誌に10数年にわたり連載執筆。

2013年には日本の鍼灸関連の総合雑誌である『医道の日本』誌に7回にわたりGold-QPD育成講座研修生とともに「在宅におけるアルツハイマー型認知症の治療」連載シリーズを紹介。在宅、高齢者入居施設、通所介護施設、鍼灸治療院での鍼灸による認知症治療の事例報告を紹介。

2009年10月31日に川崎市中原区エポック中原にて開催された第2回認知症国際フォーラム・「漢方と鍼灸による予防と治療」に韓景献教授とともにパネリストとして参加。